

竜王町における家庭教育支援の取組

■家庭教育を取り巻く現状

当町では、家庭の教育力向上に取り組んでいるものの、家庭における子どもたちの生活は、スマートフォン、ゲーム等に割く時間の増加に歯止めがかからないことなどから、十分な睡眠時間の確保などの「基本的な生活習慣」が根付かない状況であり、家庭学習の習慣も十分とはいえない。

また、保護者においては、核家族化や地域でのつながりの希薄化など、家庭を取り巻く環境が大きく変化し、家庭が抱える問題も複雑化・多様化が進む中、家庭の教育力低下や孤立化が顕著となっており、従来の家庭教育支援では十分とはいえず、訪問型の「とどける」「つながる」仕組み作りが必要である。

■家庭教育支援で目指す姿(課題解決のために…)

学校教育のめざす「生きて働く基礎学力の定着」と生涯学習の掲げる「規則正しい生活習慣の確立」を『車の両輪』と位置付ける中、学社連携のもと、子どもたちの『学ぶ力の向上』に向け、家庭教育の担い手である保護者などを対象として、テーマを設定し研修会を開催する。

また、核家族化や地縁的なつながりの減少など、これまでの地域社会とは異なる状況の中、孤立化が危惧される家庭もあり、個々の家庭の教育力の差はますます広がっている。社会全体での家庭教育支援の必要性は一層高まっており、引き続き、アウトリーチ型の支援に取り組むことで、問題の発生予防や早期発見につなげ、保護者とつながる支援を実施展開する。

■本年度の活動

- (1) 教育フォーラム 2024 の開催 <11月22日>
- (2) 家庭教育支援サポーターによる支援の実施(随時)
- (3) Yoruca?(図書館の居場所活動)での活動支援(月1回)
- (4) 家庭教育支援研修会の開催 <9月、12月、2月>
- (5) 早寝早起き啓発ソング制作とこれによる啓発活動の展開
- (6) 子育て講座「ペアレントトレーニング」の開催(年6回)



■訪問型家庭教育支援の実践内容

本年度はサポーターを2名から3名に増員し、つながりが必要な家庭に対して学校、関係機関等と相談・調整しながら支援を実施した。 【 家庭教育支援研修会 】

主に町SSWが学校や関係機関との調整を行い、体制に関することなど仕組み作りについては、生涯学習課と学校教育課の行政担当者が関与して運営をしている。また、サポーターである3名が地域の一員としても支援を要するご家庭へ温かいまなざしを向け、「あらゆる家庭を支え合える地域となるように」という目標を掲げながら活動を展開した。

■本年度の成果

支援につながった家庭の子どもたちの意欲が高まり、情緒的に安定した様子がみられた。保護者にも地域(人)への安心感、信頼感が高まったと思われる。大きな変化ではないが少しずつ変わっていく様子が見られていることがよかった。

■今後の課題

家庭教育支援サポーターには困難な家庭に関わってもらうことが多く、スキル向上のための継続した研修は不可欠である。同時に個人情報の取り扱いやサポーターとしての職務の範囲などの基本的なルールや約束ごとについても繰り返し研修の機会を持つべきであると感じた。

報告書記入者(生涯学習課 生涯学習係 主査)

竜王っ子の『学ぶ力』を育てよう！～心豊かでたくましい竜王っ子をめざして～

竜王町 本事業実施年度 平成24年度 活動内容 <ul style="list-style-type: none"> ■ 地域人材の養成 ■ 家庭教育支援体制の構築 ■ 家庭教育を支援する取組 ■ 訪問型家庭教育支援の実施 	家庭教育支援員や支援チームに関すること A:家庭教育支援チーム数 (1)チーム B:家庭教育支援員数 (3)人 C:家庭教育支援チームや家庭教育支援員の配置場所数 (1)か所 D:前項(C)の配置場所名 (竜王町教育委員会)
年間活動日数(のべ) (下記参照)	

■ 活動の具体的内容

○訪問型家庭教育支援の実践等

- ・チーム会議にて支援が決定した家庭への支援を継続。
- ・子育て家庭の親同士が出会い、つながり、子どものことや保護者自らのことについて思いを共有したり、お互いが支え合う場として、親子そだてサロン*tomoni*を開設(月1回)。

○学習講座・行事の実施等

- ・教育フォーラム2024の開催(11月22日)
- ・家庭教育支援研修会の開催 9月5日、12月12日、2月13日
- ・早寝早起き啓発ソング制作とこれによる啓発活動の展開
- ・子育て講座「ペアレントトレーニング」の開催(年6回:10月～2月)

○連絡会議・ケース会議の設置、運営等

- ・町内の小学校(2校)と中学校(1校)との連携を強化。今年度は中学校での活動をどう展開していくとよいかについて協議し、次年度の方向性を共有した。

○保護者に対する情報提供等

- ・町広報での周知と学校連絡システムを活用した情報提供を行った。



【 家庭教育支援研修 】



【 竜王町教育フォーラム2024 】

■ 実施に当たっての工夫

- 教育フォーラムでは、スマホ所有率、利用率が小学生に比べて大幅に増える中学生とその保護者をメインターゲットにし、スマホを中心とした生活習慣が将来の夢の実現に大きな悪影響を及ぼすことについて、親子それぞれの気づきを促し、スマホ時間を学習や家庭内コミュニケーションの時間へと変化させるきっかけとなる内容とした。当日参加できない保護者や町民のために記録ビデオを制作し、動画共有サイトで配信した。

■ 事業の成果

- 教育フォーラムでは、東北大学の川島隆太教授を招き、スマホと学力の関係のほか、「朝食」と「睡眠」そして「読書」の効用について、最新の研究データに基づいた脳科学の知見を用いて紹介していただいた。中学生へのアンケート結果では、「生活習慣を改めたい」や「将来のために正しい生活習慣を身につけていく」といった声も記され、中学生自らがスマホと生活習慣について考えを深める機会となった。

■ 事業実施上の課題

- 今年度の教育フォーラムは、中学生等をメインターゲットにしたことから平日開催となり、保護者の参加が少なかった。生徒たちへの直接的な働きかけはできた一方で、動画配信サイトを活用してフォーラムの様子を家庭でも視聴できるように工夫したとはいえ、家庭への啓発や支援という部分については不十分だと考える。すべての世代への啓発を考えると土日開催が望ましい。幅広い世代が参加したくなる研修会や啓発方法について検討していく必要がある。

報告書記入者(生涯学習課 生涯学習係 主査)